

ねづ やなか 文京区根津二丁目、台東区谷中一丁目付近再構築工事

受賞期間 東京都下水道局中部建設事務所

東京都区部の下水道整備は100有余年をかけ平成6年度末100パーセント概成した。東京都では現在都心部を中心として、地域全体の下水道機能の拡充を目指す「下水道再構築事業」を重要課題として取り組んでいる。この一環とした再構築シールド工事のうち、既存の下水道幹線に同一口径のシールドを直角地中接合法によって実施した事例を報告する。

1. 工事件名

文京区根津二丁目・台東区谷中一丁目付近再構築工事

2. 工事概要（図-1）

工事内容：泥土圧シールド工法

シールド外径 $\phi 3,940\text{mm}$ 、仕上がり内径 $\phi 3,000\text{mm}$

最小曲線半径 12m、最大縦断勾配 150‰

3. 管渠の直角地中接合の概要

（1）地中接合の必要性

本管渠は枝線管渠とはいって接続幹線と同一口径をしているのは、より広範囲からの雨水集水を図るとともに管渠内貯留を計画している。

（2）地中接合の検討

地中接合は一般的に補助工法を用いた接合と機械的接合に大別される（図-2）。当局の実施例において異径管の接合ではあるがフード押出し方式の成功例があることからこの方式を中心に検討した。フード押出し方式はシールドマシン前胴の外殻をフードとして使用するため、接合部が大きくなると前胴が必然的に長くなる。本工事は急曲線施工のため中折

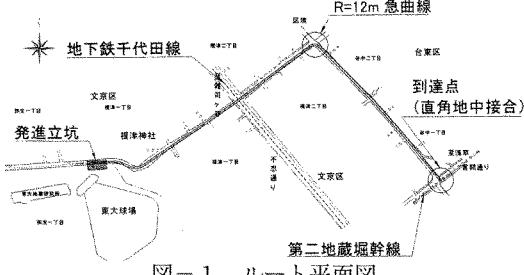


図-1 ルート平面図

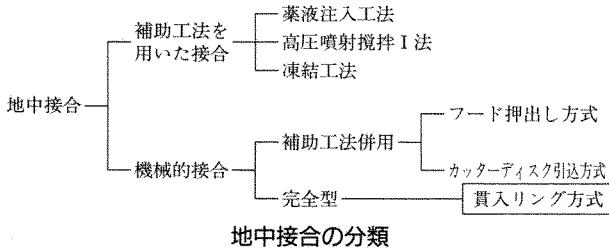


図-2 地中接合の検討

既設幹線との総合方法

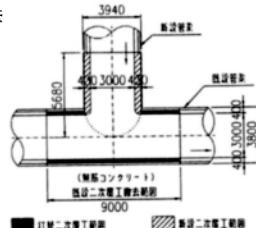


図-3 地中接合部平面図



写真-1 シールドマシン
(貫入リング押出し前)



写真-2 シールドマシン
(貫入リング押出後)

れ装置を備えており前胴長が固定されることから、この方式を断念した。

このため本工事では分割した27cmのリングを押し込む完全型接合工法の変形としての補助工法貫入リング方式を採用した（写真-1、2）。

接続部の上部はN値10程度のルーズな粘土混じり砂層、下部は砂混じりシルト層であり地下水位も高いことから、切り羽の崩壊防止、止水のため構内からの低圧浸透注入工法を併用した。

既設管線は二次覆工を壊し鉄筋コンクリート構造とし、新設管と一体構造とした（図-3）。

施工時においては、既設管内は仮設補強鋼材をピッチ1.0mで設置し、新設側は補強リブ・補強リングを設置した。

4. 接合部の応力計測

今回の施工は当局では最初のケースで、設計手法も確立されていないところでの施工であり、安全施工するため各種の計測を併用し無事施工が完了した。

5. まとめ

再構築の事業効果を高めるためには、少ない経費で短期間に整備することが重要であり、本事例は本旨に沿ったものと考える。

計測データを解析した結果では今後検討すべき点も抽出されたが、本事例を参考として計画中の同種の工事の参考となれば幸いである。

受賞賛助会員 株青木建設、株大林組

横浜動物の森公園整備事業(よこはま動物園第1次開園部分)

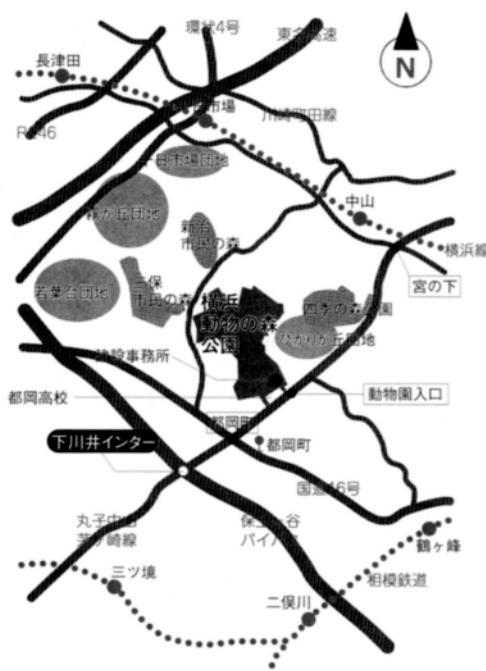
受賞期間 横浜市緑政局公園部横浜動物の森公園建設事務所

はじめに

横浜動物の森公園は、市の北西部に位置し市政100周年記念の都市計画公園である。公園は、動物園部分（53ha愛称ズーラシア）と植物公園部分（50ha）からなり、12年の歳月をかけ動物園部分の内35.8haを平成11年4月24日に第一次開園した。

事業の概要

よこはま動物園(ズーラシア)ではアジアの熱帯林、亜寒帯の森、オセアニアの草原、日本の山里、中央アジアの高地、アマゾンの密林からなる各気候帯別の動物展示と動物が生息している環境の再現(生息環境展示)をコンセプトに、擬木・擬石と展示各気候帯のイメージを損なわず、横浜で生育可能な植栽(代償植栽)及び各気候帯のデザインを施した建築物や民具による雰囲気づくり(環境演出)を実施した。

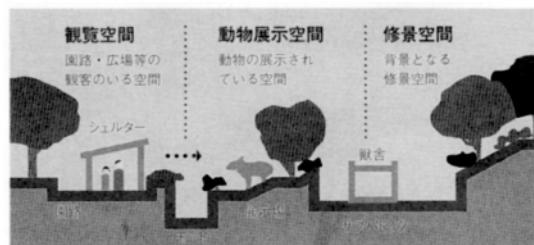


交通のご案内

- 電車・バス ■ 相鉄線「鶴ヶ峰駅」「三ツ境駅」下車
■ J R横浜線「中山駅」下車
※各駅からズーラシア行きのバスが運行します。
- 自動車 ■ 東名高速自動車道「横浜町I.C.」から約15分
■ 保土ヶ谷バイパス「下川井I.C.」から約15分
※駐車場あり(有料)1,500台



オカピとパドック



展示空間の基本方針

従来の動物園では、展示場と獣舎が一体となった展示を行っていたが、本動物園では、生息環境展示のコンセプトに従い展示空間を観覧空間、動物展示空間、修景空間で構成した。また、絶滅の危機にある野生動物の繁殖と種の保存が動物園の重要な役割であることから、繁殖センターと動物病院を設置した。

事業の特徴

動物園は、環境教育と来園者サービスが重要である。ズーラシアでは、動物の見所を案内するウォーキングツアー、各動物の特徴を案内するスポットガイド、ベビーカー等のレンタル用品の貸し出し、駐車場の誘導管理、園内清掃から臭気をすばやく取り除く糞の処理等の管理運営業務を財団法人横浜市緑の協会が実施している。

従来にない整備・管理水平、レストラン、ショップなどのサービス施設の充実。本邦初で森林に入ったキリンとよばれるオカピ、世界で約300頭しか生息していないインドライオン、ベトナム戦争時の枯葉剤の影響で絶滅の危機にあるドゥクラングール等々稀少動物等との魅力が相まって初年度予測を大きく上回る224万人の入場者があった。

今後残りの17.2haを市民に人気のあるアフリカ区の整備を行う。

なにわ大放水路の建設

受賞機関 大阪市下水道局
日本下水道事業団

はじめに

なにわ大放水路は、大阪市東南部の抜本的な浸水対策として、この地域一帯に降った雨水を住吉川を通じて大阪湾に放流する、計画排水量73m³/sの下水道幹線とポンプ場からなる雨水排水施設である。

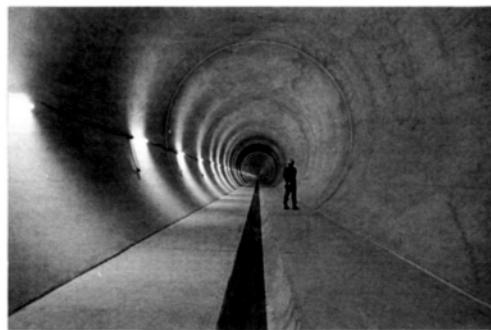
事業の概要

- ・施設概要
 - 下水道幹線（平野～住之江下水道幹線）
 - 幹線 内径6.5m～3.5m 延長8.5km
 - 準幹線 内径5.0m～2.2m 延長3.7km
 - ポンプ場（住之江抽水所）
 - 主ポンプ 口径2200mm 6台
 - 貯留水ポンプ 口径 350mm 2台
 - 口径 250mm 2台
 - ・計画事業費 980億円
 - ・事業経過 昭和60年3月 着工
 - 平成2年9月 7万m³仮貯留開始
 - 平成3年6月 20万m³仮貯留開始
 - 平成7年6月 25万m³仮貯留開始
 - 平成9年4月 30万m³仮貯留開始
 - 平成12年3月 住之江抽水所通水

事業の特徴

下水道幹線は、長居公園通りなどの交通量の多い幹線道路の地下に布設されており、布設位置は地下鉄の下を通過することなどから、土被りが深いところで約24mと大きくなっている。

この下水道幹線の施工にあたっては、道路交通に与える影響を最小限にするために、全線をシールド工法で施工するとともに、立坑の数を減らし、地中接合を5カ所で採用した。さらに、ニュートラム基礎に制約された空間において、90° 転換する際、転換立坑の施工スペース



完成したトンネル



住之江抽水所

がとれないことから、半径22mの急曲線シールド（仕上がり内径6.5m）を施工するなど、多くの新技術を導入して施工を行った。

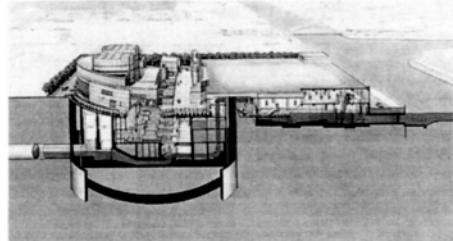
ポンプ場については、流入幹線の管底が地下約31mと非常に深いため、ポンプ室の掘削深さは約41mとなること、設置するポンプが大口径であること、近年ポンプの耐久性が向上していることなどを考慮し、後沈砂池方式を採用することで掘削深さを浅くし、建設費の低減を図っている。

また、ポンプ場の平面形状を、LNGタンクのように円形にすることで、連続地中壁を用いた円形逆巻き工法による掘削工法を採用することが可能となり、工期の短縮と建設費の低減を図っている。

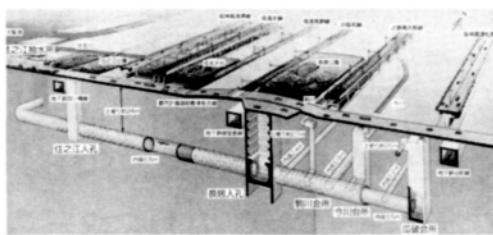
ポンプ場の完成後は、ポンプ場の上部を広く市民に親しまれる施設として有効利用していくとともに、敷地内の雨水の再利用により、雨水の流出抑制も図っている。

受賞賛助会員

株青木建設大阪本店、株荏原製作所大阪支社、株大林組本店、株奥村組関西支社、鹿島建設株関西支店、株熊谷組大阪支店、株鴻池組大阪本店、佐藤工業株大阪支店、清水建設株大阪支店、住友建設株大阪支店、株錢高組大阪支社、大成建設株大阪支店、株竹中工務店大阪本店、鉄建建設株大阪支店、東亜建設工業株大阪支店、戸田建設株大阪支店、飛島建設株大阪支店、西松建設株関西支店、日本国土開発株大阪支店、株間組大阪支店、不動建設株大阪本店、前田建設工業株大阪支店



住之江抽水所イメージ図



位置図

神戸市戦災復興土地区画整理事業

受賞機関 神戸市都市計画局

はじめに

神戸市は、第2次世界大戦において度重なる空襲を受け、市街地の6割に当たる約1,950haが被災した。焼失家屋は12万8,000戸を数え、戦前に100万人を超えていた人口は終戦直後には38万人に激減した。

戦災により焦土と化した神戸市をいち早く再建するため、昭和21年に神戸市復興基本計画を策定し、昭和22年から行政庁（市長）施行による戦災復興土地区画整理事業に着手した。

事業の概要

本事業は、戦災焼失地とその周辺地域を施行区域とし、当初の施行面積は町村合併前の旧市域で約2,148ha、合併前の東灘区旧5ヶ町村で約554ha、合計約2,702haであった。施行区域が広大であったため、11地区（本庄、本山、魚崎、住吉、御影、灘、葺合、生田、長田、須磨）に分けて進められた。

その後、昭和27年に本山地区で最初の換地処分を行って以降、順次換地処分を行い、平成11年8月に全国で最後の戦災復興地区となる葺合地区の換地処

神戸市戦災復興土地区画整理事業一覧

地区名	施行面積 (ha)	区域決定	事業計画 決定年月日	換地処分 年月日
本庄	137.0	S21.8.16 S24.3.31	S22.8.1 S30.3.31	S31.10.20
本山	30.2	S21.9.18	S22.6.19	S27.3.31
魚崎	76.9	S21.8.16	S22.10.14	S32.4.1
住吉	75.9	"	S22.3.8	S37.9.5
御影	109.1	S21.9.18	S22.9.12	S37.9.30
東灘 復興計	429.1	—	—	—
灘	385.1	S21.8.16	S22.10.28 S52.7.26 S52.11.15 S61.2.12	
葺合	313.4	"	S22.12.27	H11.8.31
生田	242.8	"	S22.11.27	H2.9.26
兵庫	433.9	"	S22.10.28	S57.6.1
長田	188.7	"	S22.12.27	S56.6.30
須磨	214.5	"	S22.11.27	S54.1.31
神戸 復興計	1,778.4	—	—	—
戦災 地区計	2,207.5	—	—	—



昭和23年頃（葺合地区）
(神戸市戦災復興土地区画整理事業)



平成10年頃（葺合地区）
(神戸市戦災復興土地区画整理事業)



（施行前）
板宿駅付近



（施行後）

分を完了した。事業中数回にわたって施行区域の変更等を行ったため、施行面積は最終的に2,207.5haとなった。

事業の特徴

本事業により、山手・中央・浜手の3大幹線をはじめとする市街地の街路が整備されるとともに、王子公園・須磨海浜公園・生田川公園などの市民の憩いの場も整備され、市街地の骨組みの大部分が形成された。また、本事業に合わせて、再開発事業等との合併施行による商業の活性化、住環境の改善、下水道の整備、鉄軌道の高架・地下化、幹線道路の立体交差化などを行った。

びほく 国営備北丘陵公園備北オートビレッジ

受賞機関 建設省中国地方建設局国営備北丘陵公園工事事務所

「備北オートビレッジ」は、国営備北丘陵公園の第2期開園区域として、平成11年6月にオープンしたオートキャンプ場を中心とする46.5haのレクリエーションエリアである。

特徴

- ・一区画の面積が200~300m²と、通常のキャンプ場の2倍以上を有する。
- ・水洗トイレ、シャワー室、洗面所、流し台、電源等の他、宿泊所には、台所、風呂、冷暖房等設備があり、家族で快適に利用できる。
- ・高齢者などでも安心して利用できるバリアフリー対応の施設となっている。また、夜間も管理人が常駐しており安心して利用できる。
- ・エリア内には木製遊具やジャグジップ池、現場発生木材を利用したチップ舗装による林間散策路が整備されている。



国営備北丘陵公園の周辺地図



一般カーサイト全景



備北オートビレッジ



一般カーサイト利用状況

主な施設

- ・一般カーサイト 38区画
- ・フリーサイト 45区画
- ・コテージ 19棟（うちバリアフリー対応2棟）
- ・管理センター内の施設
多目的室（60人収容）・温水シャワー・売店等
- ・キャンプ場内の施設
トイレ炊事棟 5棟・シャワー棟 1棟

問い合わせ先

- ・国営備北丘陵公園 備北オートビレッジ
電話 08247-2-8800
<http://www.bihoku-park.go.jp/>

受賞賛助会員 (株)ウエスコ、日本鋼弦コンクリート(株)大阪支店

都市計画道路柳井駅門の前線道路改築二種工事

受賞機関 山口県柳井土木建築事務所

はじめに

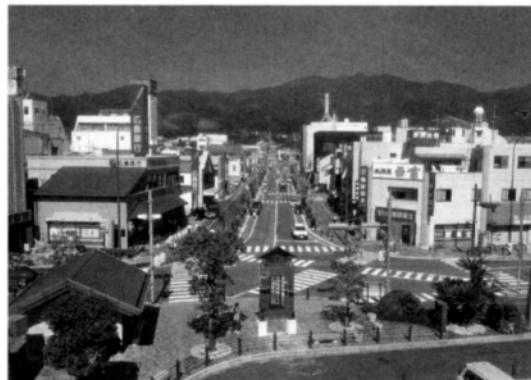
柳井市は、山口県南東部に位置し、室町時代から瀬戸内水運の港町として発展し山陽道屈指の商都として栄えてきた。交易の中心地であった市街地中心を流れる柳井川左岸沿いの古市、金屋地区は、住時をしのばせる白壁の商家が立ち並び、昭和59年国的重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。

事業の概要

柳井駅北通り商店街は古くから柳井地域の中心的な商店街として発展してきたが、近年は交通アクセスの悪さや駅南地区に進出した大型小売店舗などの影響を受け、廃業に追い込まれるなど商店街としての機能が急速に低下しつつある。このため、平成元年にJR柳井駅北地区の活性化を目指し、駅北地区42haの地区整備構想を策定し、以後、まちづくり事業を展開し、柳井駅から白壁通りをとおり「サンビームやない」までの540mを柳井市のシンボル軸（柳井の顔）として位置づけ整備することとした。

事業の特徴

全体延長540mのうち、柳井川を挟んだ南側240mを1工区、北側300mを第2工区とし今回1工区240



全景

mの内170mが整備完了している。整備のコンセプトは、第1工区を明治以降発展した柳井川南地区として、明治期から昭和初期のイメージを基調とした「レトロ調のまち」、第2工区を江戸時期に発展した柳井川北地区として、「江戸情緒のまち」（白壁の町並みにふさわしい落ち着いたまち）としている。

整備内容については、電線類地中化を行い、歩道舗装を1工区のコンセプトであるレトロ調にふさわしい素焼煉瓦舗装を施した。また歩道幅を5.5mとり誰もが快適に歩くことのできるようバリヤフリー対策を行った。

まちづくり（地元）との連帯

舗装、植栽、照明など個々の材質や色彩など細かなところまで地元の意見を取り入れることとして、地元商店会などと話し合いを重ねることにより住民参加のまちづくり整備が行えた。また、第2工区については、江戸時代に建てられ、伝統的建設物群に指定された白壁の街並みにふさわしい街路事業を目指して、住民参加を更に進めた市民ワークショップによる計画づくりに取り組んでいる。

そして地元商店会では、当事業に合わせ、通りを「麗都路通り」と名付け、沿道における「まちづくり協定」を策定し、各自がまちづくりの作法や街並みの基準を守りつつ、自分たちで美しい街並みの実現に取り組んでいる。



平面図

たかのばしうじなせん 都市計画道路鷹野橋宇品線整備事業

受賞機関 広島市道路交通局道路部道路計画課
広島高速道路公社

はじめに

都市計画道路鷹野橋宇品線は、広域拠点として位置付けられている宇品・出島地区と都心部との連絡強化、また現在計画・事業中の指定都市高速道路広島高速3号線に接続する総延長約3.2kmの幹線道路である。

また、本路線が河川合流付近を渡る場所に架けられた橋梁「宇品橋」はパイプアーチ橋を中心に構成され、その優雅で美しい景観は、広島の新しいランドマークの1つとなっている。

事業の概要

事業区間：中区大手町五丁目～南区宇品西六丁目

事業期間：平成3年度～平成11年度

事業延長：2.85km（うち橋梁639.5m）

幅員：25m～30m（4車線）

道路規格：第4種第1級

設計速度：60km/h

事業の特徴

本路線は、南大橋東詰めから一級河川元安川左岸沿いを経由し、河川部を渡り宇品内港埋立地沿いに広島港へと続く都市計画道路である。

道路用地は、元安川埋立事業及び宇品内港埋立事



宇品橋渡河部全景

業と事業調整することにより、総取得面積約5.1万km²のうち約4.1万km²を取得している。

工事においては、全ての工種において工期短縮を図った結果、約3年半の工期で全線完成させ、指定都市高速道路である広島高速3号線I期区間とともに平成12年3月に供用を開始している。

本路線の供用により宇品・出島地区と都心部の連絡が強化されたことに加え、広島高速3号線と一体となり、広島市東部方面から都心部への連絡強化や周辺道路の渋滞緩和に大きく貢献している。

また、本路線の中央部に位置する橋梁「宇品橋」は、2つの河川の合流付近を渡河する橋として、

- ①広域拠点として整備が進む宇品・出島地区と都心部を結ぶ玄関口としてゲート性をもつこと。
- ②周辺の環境と調和して人々が親しむことができること。

③近代的で特徴的なランドマークとなること。を基本方針として選定・デザインされており、陸地部にはゲート性をイメージさせる優雅でダイナミックな単弦ローゼ桁橋を、河川部には周辺環境との調和を持ちシンボリックに橋を支えゲート性をあわせもつパイプアーチ橋が、河川合流部の広い水面に広島の新しいランドマークとして写し出されている。

受賞賛助会員

石川島播磨重工業㈱中国支社、㈱酒井鉄工所大阪支社広島営業所、新日本製鐵㈱中国支店、大成建設㈱広島支店、㈱竹中土木広島支店、戸田建設㈱広島支店、日本鉄塔工業㈱広島営業所、日本道路㈱中国支店広島営業所、日立造船㈱中国支社、三菱重工業㈱中国支社



鷹野橋宇品線全景

都市計画道路大蔵朝霧線道路新設事業(大蔵朝霧陸橋)

受賞機関 明石市土木部街路課
兵庫県県土整備部土木局街路課

はじめに

明石市は兵庫県南東部に位置し、東経135度日本標準時子午線が通る町であり、眼下には明石海峡が広がり、平成10年4月には「明石海峡大橋」が供用開始されている。

本路線は明石市東部大蔵海岸から一般国道2号、山陽電鉄、JR山陽本線を経て第二神明道路大蔵谷ICに至り、「明石海峡大橋」にアクセスする道路であり、市東部地域における主要な南北幹線として周辺南北道路の朝夕休日の交通渋滞緩和、災害時の防災幹線道路の機能、さらに踏切により分断されていた南北地域の利便性向上と踏切事故解消を図るため、国道、鉄道との立体交差を含む延長691mの区間を明石市が街路事業として整備を行ったものである。

事業の概要

今回整備が完了した立体交差部「大蔵朝霧陸橋」の概要を下記に示す。

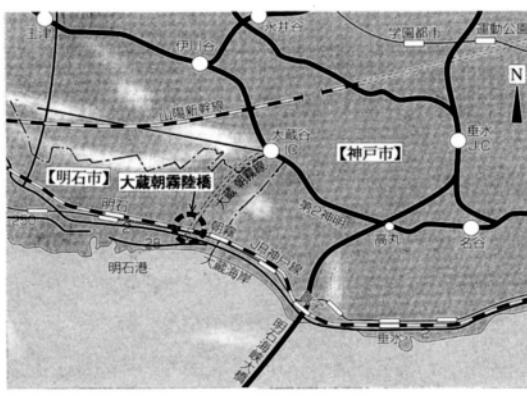
道路規格：第4種第2級

設計速度：60km/h

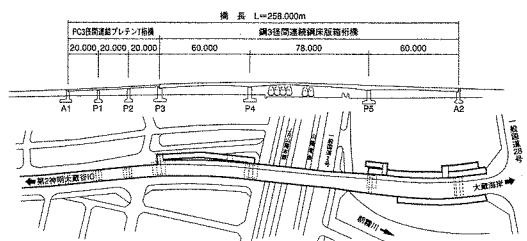
橋梁延長：258m（鋼橋198m+PC橋60m）

有效幅員：8.1m~ 13.85m

(歩道 3m × 片側、車道 2 車線)



位置図



橋梁一般図



大蔵朝霧陸橋（北方を望む）



市街地上空より、明石海峡大橋、大蔵海岸
(南東方を望む)

構造形式

上部工：鋼3徑間連續鋼床版箱桁橋

PC3 径間連結プレテンションT桁橋

下部工：橋台 RC 逆T式、場所打杭

橋脚 R C 張出式、場所打杭

事業の特徴

事業実施に際しては、地元に溶込む橋梁形式の選定と遮音壁等環境保全を考慮した施設整備を図るとともに、歩道部のスロープ化、滑りにくい舗装、シェルターを設置し、「利用しやすさ、歩きやすさ」の配慮に努めた。

また、隣接する大蔵海岸整備事業等と景観面での一元化を図り、道路施設物の一部修景化を行った。

さらに、施工面では特に、国道、鉄道（6線）、市道上空での鋼桁架設作業で、関係機関の多大な協力体制のもと、国道2号の夜間通行止め（4回）、起電停止措置等により、無事故で短時間（3時間）の間に架設を完了することができた。今後は、地元の要望に応え、陸橋高架下空間の有効活用を地元の意見を尊重しながら図っていくこととした。

受賞賛助会員 極東工業(株)神戸営業所、(株)本間組神戸営業所

震災復興事業市街地再開発事業

受賞機関

宝塚市都市復興部壳布再開発課
尼崎市都市局潮江再開発事務所
神戸市都市計画局再開発部再開発課
都市基盤整備公団関西支社震災復興事業本部市街地整備第一部

はじめに

平成7年1月の「阪神・淡路大震災」では、多くの人的災害と同時に住宅にも多くの被害をもたらした。まず、まちの復興として求められたものは、生活再建の第一歩である住まいの復興と次に、震災で明らかとなった従来のまちづくりの課題を踏まえ、21世紀の円熟社会にふさわしい市街地の整備・再生であった。公団では、震災復興事業本部を設置し、兵庫県や県下市町村と協力し被災地の早期復興を目指し、市街地の整備・再生に取り組んできた。特に、再開発事業においては、公共団体から早期事業化の強い要請を受け、施行者として直接5地区を施行しており、11年度には、3地区(JR尼崎駅北第二地区、JR住吉駅前地区、壳布神社駅前地区)が竣工した。

事業の概要

- ・壳布神社駅前地区では、震災後の事業の命題である防災拠点としての再開発をめざし、平常時には文化集会施設として活用し、緊急非常時においては避難施設、ボランティア活動の拠点となる公益施設を整備した。震災復興再開発事業として県下で初めてまち開きを迎えた。
- ・JR住吉駅東地区でも、同様に、東灘区役所及び東灘消防署の整備や広場緑地の確保等防災機能の強化されたまちづくりを行った。
- ・JR尼崎駅北部は、公団施行の第1、2地区及び兵庫県住宅供給公社の駅前地区の3再開発事業並びに尼崎市施行の密集市街地整備促進事業、自力更新地区及び公団の任意住宅事業等様々な事業手法を用いた広域の都市整備(約11ha)を平成元年から行ってきたが、震災を契機にさらに、事業進捗を図



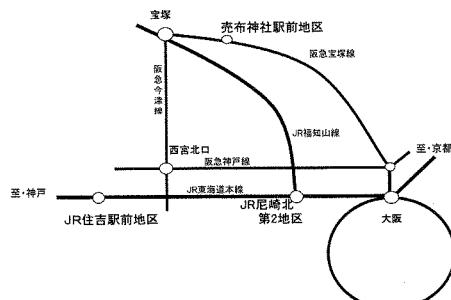
JR住吉駅前地区



壳布神社駅前地区



JR尼崎北第2地区



位置図

り、特に、JR尼崎駅北第2地区では駅前広場等の新設等公共施設の整備を含めた大規模再開発事業を完成させ、市東部の拠点としての都市整備の一翼を形成している。

事業の特徴

この3地区は、再開発事業の中で最も困難な権利者合意形成を震災後の混乱の中で迅速かつ短期間に実行し、さらに工事も迅速に進めるなど事業推進を図り、震災復興事業として極めて短期間での事業を完了させた。また、これらの事業は駅前地区に合った合理的かつ高度利用を図りつつ公共・公益施設、駐車場等の整備、商業施設、都市住宅の供給など従来の再開発の機能ばかりではなく災害時の拠点や区役所・消防署の整備など災害に強い都市整備の拠点を完成させ、今後の再開発事業の先導的役割を果たした。

受賞賛助会員

株浅沼組、大木建設㈱、株大林組、五洋建設㈱、住友建設㈱、株錢高組、大成建設㈱、高砂建設㈱、東急建設㈱、株東芝、東洋建設㈱、戸田建設㈱、日立造船㈱、株フジタ、前田建設工業㈱、三菱建設㈱

あわきがはら

阿波岐原森林公園（フローランテ宮崎）整備事業

受賞機関 宮崎市

はじめに

本市では昭和59年に市制60周年を記念して、提唱した3つの市民運動のひとつとして「まちに緑と花をふやす運動」に取り組んできた。

阿波岐原森林公園（フローランテ宮崎）は、この運動をさらに市民の心に根付く運動として普及・定着させ、「世界に誇れる花のまち・みやざき」を推進するための拠点施設であり、「花の鑑賞、体験の場の提供」「花の情報提供」「交流の場の提供」「憩い、レクリエーションの場の提供」の4つの機能を有し、平成12年4月29日みどりの日にオープンした。

また一つ葉リゾート地区に位置することから、新たな宮崎の観光施設としての役割を担う為、花の魅力をテーマにした様々な活動やイベントの展開を行っている。

事業の概要

所在地：宮崎市山崎町浜山414-16

整備面積：約5.1ha

事業期間：平成8年度～平成11年度

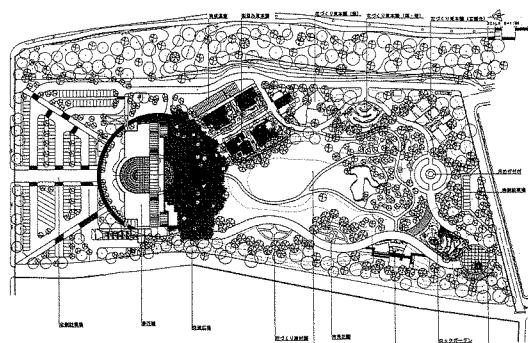
総事業費：28億円

事業の特徴

屋内施設である「夢花館」には、大規模なガラス屋根を持つ「アトリウム」（室内庭園）や、花づくりに関する情報をパソコンで提供する「情報センター」等がある。

屋外施設として、花と緑のある豊かな生活を身近に鑑賞できる「街並み見本園」、そして「庭」「埠・壁」「玄関先」「テラス」における花飾りを具体的に学べる「花づくり見本園」があり、ガーデニング雑誌で紹介されるような花づくりをじかに鑑賞できる施設づくりとなっている。

また広々とした「芝生広場」は、冬でもオーバーシードにより草花や樹木と調和した鮮やかなグリーンに保たれている。



フローランテ宮崎 計画平面図



市民花園 夢花館



ピクニックガーデン



芝生広場

景観設定においては、一つ葉海浜の美しい松の大樹海、国際海浜コンベンションリゾートの中心部に位置するリゾート施設「シーガイア」等の周辺景観との融合調和を図ることを念頭においている。

主要施設である「夢花館」は、隣接する「シーガイア」と一体の風景となるよう考慮し、施設のデザインに宮崎の豊かな自然をイメージした波のような曲線を取り入れてある。

屋外の庭園空間においては、周囲の松林の景観をつなぎ、連続させるため、テーブルマツを列植し、園路と交差しながら、各庭園を見え隠れするように柔らかく仕切ることにより、変化に富んだ園路景観となっている。

受賞賛助会員 リガートクマガイ宮崎営業所